

田牧一郎の第55回 カリフォルニア稻作便り

日本の稻作は国際競争力を持てるのか？（その3）

ずいぶんと前ですが、親しい友人とこんな「頭の体操」をしました。

●コメ輸入の日

コメが日本に輸入されるとすれば、そのきっかけあるいは状況、そして影響はどうなるのだろうか？ 消費者へは、どのように輸入米が販売され、価格はどうになるのか？ 生産者はどのようなコメをいくらで販売できるようになるのか？ あるいは、コメ作り経営を継続できるのだろうか？

コメ輸入を前提として経営を検討しなければ、将来のコメ作り経営は成り立たないと考えていました。かつてはこのようなことを発言する農業者は裏切り者であり、古い言い方ですが非国民的な目で見られていました。今でも状況はさほど変わっていませんが、とにかく窮屈な雰囲気でした。そのような中であえて日本へのコメ輸入がなされる時の予測をしてみまし

た。

この2通りともタイミングはどうあれ、そのうち起っこり得ることだと思いました。実際に、冷夏による不作から緊急輸入が行われました。ガットの場でミニマムアクセスによる輸入が決まったのはそれからすぐのことでした。どんな理由にせよ大量のコメが輸入されることが決まった時、私はどんでもないことになつてしまつたと驚きました。

将来の展望があまりはつきりしない状況の中で、コメ輸入についての対策もないままそれが現実となつてしまつたからです。そして私にでもこの様なことを予想できていたのだから、当然誰か（政府とか学者とかシンクタンクとか）がコメ輸入に対する対策を考えているのだろうとも考えていました。しかし実際にはどうも何も対策はできていなかつたようでした。

直接的には輸入対策、そして国内での供給対策とその後の生産対策、それぞれしつかりとした対策が必要だつたはずです。

もし不作による大量輸入が必要になつたらどうするのだろうと、勝手に心配していました。コメは一粒たりとも輸入しないと言っているのが農業団体の意志であり、国会決議でもあり、いわば国民の意思を代表するポリシーであつたため、現実に対応する対策がまともな形で検討できなかつたのも不幸な事でした。

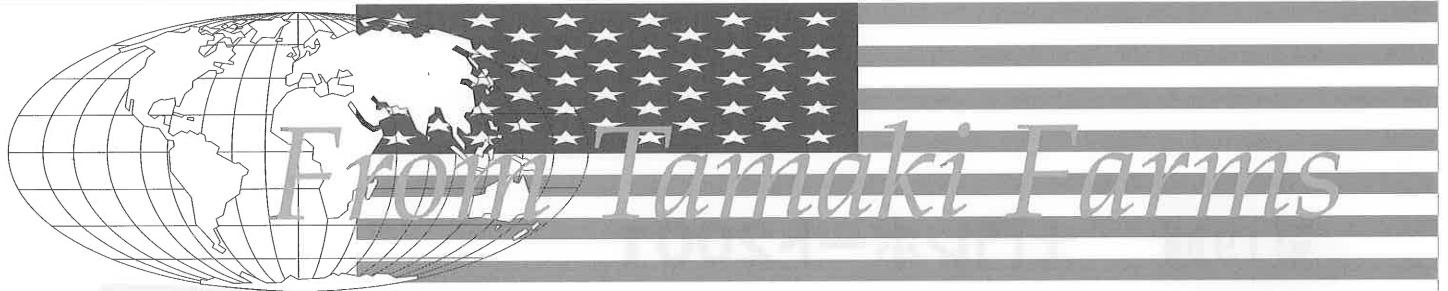
①最も抵抗なく輸入されるのは、不作が続き国内での生産が消費をまかなえなくなつた時
②いやいやながら輸入せざるを得ないのは、当時のガット（現在のWTO）で合意した時



たまき・いちろう／1952年12月
郡山市生まれ。中学卒業と同時に就農。89年渡米。カリフォルニア州で稻作（約80ha）を開始。
タマキ・ファームス・ジャパン
TEL045-781-6426 FAX 045-781-6427

●日本の緊急大量輸入

緊急輸入の時、私はカリフォルニアでコメの精米販売業をしていました。
最新のコメ輸入ノウハウを持たない日本はどうするのか、不安を抱きながら状況の推移を見守つてい



ました。

買ったことのない物を大量に短期間に買い込むと言ふ大変難しいことをしなければならなかつたわけですから、多少の混乱はしかたがないと思います。輸出国側はコメを買いに来るお客さんは大事にしますので、出来るだけたくさん販売する努力をします。そして価格もできるだけ高く支払つてもらえるように努力します。

その結果、カリフォルニアのコメ業界は抱えていた過剰在庫を一掃することができました。しかも最悪の場合には家畜の餌としての価格にしかならない物が、通常より高い価格で販売することができます。結果論ですが、日本では輸入米と国内産米も合わせた総供給量が多過ぎたため、その後の国内産米の価格下落に拍車をかけることになつてしましました。

なぜ必要以上に輸入してしまつたのか？ 理由はいろいろ考えられるでしょうが、単純に国内の生産量と流通量の把握ができるいなかつたため、必要以上に輸入することになつてしまつたのだと思います。

国民への主食の安定的な供給と言う絶対的な使命を果たすため、政府の対策として余裕を持つた供給策、そして万が一、翌年の国産米生産がいくらか少なくなる間も間に合うだけの量を確保しておきたかったのだと解釈も出来ます。

しかし、大量に輸入したコメがその後の日本国内産米の価格や生産に与えた影響は大きかつたと言えます。

● 恒常的な輸入

その後まもなくガットの場で日本がミニマムアクセスによるコメ輸入を合意し、恒常的な輸入が開始されました。

コメ輸入の是非はともかく、実態としてコメが日本に入り、国内の生産や流通に影響を及ぼしている

ことは確かです。

ミニマムアクセスでの輸入米は全量政府の管理で、主に海外の食料援助や国内には碎米など加工用に使用されています。

SBSでの輸入量は10万t前後で日本の消費量の1%程度です。最近話題になつた冷凍加工され輸入された弁当に使用されたコメは数10tです。

とは言え、輸入米が国内生産米を確実に圧迫していることも事実です。コメの消費が増加していれば問題は小さいのですが消費量が横這いか減少しているところに、コメ輸入があればその分国内生産のものは減少せざるをえません。

これがコメ輸入の国内生産への影響です。
ミニマムアクセスで輸入することを決めた時、「国内生産にはできるだけ影響を与えないような輸入を行う」との政府の説明であつたと記憶しています。

● 国際競争は可能

私は日本のご飯で食べるコメには国際競争力があると思っています。

日本国内に輸入された食用のコメと日本国内産のコメがスーパーの棚に並んだとき、それそれに付いている価格、そして食べたときの消費者の感想を比較すれば、はつきりするはずです。

現状の輸入制度の中では、店頭価格が国内産と差が大きくならないよう、人為的に調整された店頭価格が付いています。これは世界中どこにでもあることで、関税等でなにがしかの調整が行われています。

日本産のコメは価格が少々高いのが問題ではあります、味と品質では世界一の水準だと思います。価格と品質のバランスが消費者の意志決定に大きな影響を与えているわけですが、日本国内産米は現在の品質を保ちながら、価格を下げることで競争力を増していくことができます。

単純と言えば単純であり、問題がはつきりしておらず対策も明確に立てられるはずです。

それがなぜできないのか？ どうすればいいのか？

(つづく)



試験栽培していた稻の脱殼作業

す。影響の程度問題ですが、輸入米が国内生産に影響がないということは考えられません。何らかの影響が出ることは間違いないし、輸入量が増えれば国内産米の生産が減少するのは当たり前のことです。

残念ながら日本の国内産米と輸入米の価格差はまだ大きくなり、コメであればとりあえず粒の形や食味は問わないと言う、加工用米ではまったく価格の上で競争にならない現実があります。

日本国内産米が輸入米と競争できる部分はないのか、あるいは競争に勝てなくとも共存は可能なのか検討する必要があります。

この研究こそが日本の稲作の国際競争力を見極め、今後の進むべき方向をはつきりさせてくれるはずです。